



No.	事業等の名称	団体名	事業の概要			交付決定 年月日	事業費(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付額
1	しろやま土曜寺子屋活動	しろやま土曜寺子屋実行委員会	<p>子どもたちが学校での学習を通して、もっと広く深く学習してみたいと思ったり、逆に苦手意識を持つようになっていたりしていると思われる。そこで、小学校時代という早い段階から地区内のそういう子どもたちに対して、地域の大人たちができる支援に取り組みたい。</p> <p>また、地縁的なつながりや共通の価値観が希薄化しており、地域のコミュニティづくりの必要性が高まっている。</p>	<p>地域の子どもの地域で育てるという考えのもとに、地域の子どもたちが進んで学習しようとする場と機会を提供し、地域の大人たちが子どもたちに寄り添いながら学習の支援をするという具体的な活動を通して、子どもたちと子どもたちに寄り添う大人たちとのコミュニケーションづくりをする。また子どもに寄り添う大人同士のコミュニケーションづくりなど、希薄になっていると言われている地域の絆づくり、人と人との関係性、すなわち地域のコミュニティづくりを促進することを事業の目的とする。</p>	<p>城山地域内の小学校や公民館などを会場にして、毎週土曜の午前中2時間程度、地域の大人(城山に在住または通勤、通学している高校生以上の人)が子どもたちに寄り添って学習を支援していくものであり、学校教育に関する学習に加え、地域の文化・伝統を学ぶ機会を設け、地域への愛着心を育てる。</p>	R6.4.26	331,000	331,000	331,000
2	若葉台を含む城山地域の防災・減災プロジェクト	若葉台住宅を考える会	<p>城山地区は地域住民の防災意識がまだ高いとは言えず、現状では災害時に生き残るための行動や助け合うためのつながりがつくりだせていないのが現状です。</p> <p>さらに、高齢化率が約60%の若葉台地域においては、多世代の防災コミュニティづくりや防災意識の向上に加え、個々にあわせた避難計画の策定、地域内外の防災ネットワークづくり、そして次世代の担い手の育成が急務です。</p> <p>そこで、能登半島大地震発生を教訓と捉え、専門家による防災・減災対策として実践型の学ぶ場(講座やワークショップ)を設けます。そこで過去に起きた被災地支援を行った経験や情報を得る事で、生き残るための知識や知恵、技を身につけると共に地域内外の防災ネットワークづくりと地域の防災力の向上をはかります。</p> <p>未来に起きる可能性が高い関東直下型大地震や豪雨災害の被災による「死者0」を目指し、子育て世代～高齢者までの多世代で防災・減災を学ぶ機会をつくりたい。</p>	<p>多世代向けの防災イベントや講座・ワークショップを通じて、住民ひとりひとりが「もしも」から「いつでも」の備え”をしてもらい、地域全体の防災意識の向上を図ります。また地域内外(若葉台・城山地区・周辺地域・全国各地)の多世代による防災コミュニティ×防災ネットワークづくりをすることを目的にこの計画を実施します。そして、3年計画で城山地区において防災活動に関する多世代の担い手作りを事業の最終目的とします。</p>	<p>本年度は、春・秋の年2回の防災イベント、講座&ワークショップを地域内外の多様な団体や専門家と協働実施します。3. 11東日本大震災や能登半島大地震などの体験談や写真パネルに加え、多世代が参加できる防災×あそび、時系列(災害発生・脱出・避難・避難場所・避難所生活など)による様々な体験型の防災ワークショップ、身近なモノをつかった衣食住の防災サバイバル術や0次・1次・2次の備えや地域資源などを学びあいます。</p> <p>また、その過程で、地域内外の防災コミュニティやネットワークづくりも行います。</p> <p>①春の防災イベント「あそぼうさい」 場所:若葉台小栗公園 対象:親子～高齢者まで *主に5才～12才の子どもと家族 内容:知識だけでなく、「やっている! やったことがある!」体験型の防災ワークショップを実施する。地域内外の多様な団体や専門家連携し、あそび場と防災を組み合わせ、子育て世代や子どもたちが参加しやすいイベントにする。また、参加者にLINE登録してもらい、今後の情報発信をしていく。</p> <p>②秋の防災講座・ワークショップ「のむ・くう・だす」 場所:若葉台自治会館 対象:親子～高齢者まで 内容:生き残るための水の確保、災害時の上下水問題、非常食体験、非常時のトイレ処理方法やトラブルなど、のむ・くう・だすをテーマにした防災講座・ワークショップを実施する。非常食体験では、いろいろなアレンジレシピや食材を食べ比べ、ローリングストックを学ぶ。また、紙食器づくりやペットボトルスプーンなども体験し、食とトイレの備えをしてもらう。</p>	R6.4.26	400,000	300,000	300,000

No.	事業等の名称	団体名	事業の概要			交付決定 年月日	事業費(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付額
3	あつまれ～しろやまっ こ！	城山地区まちづくり会 議 子どもたちの主体 性を育む地域づくり部 会	<p>かつて、子どもたちの社会性の基礎となる「人との関わり」は、近隣の子どもの同士の交流や、家庭の中でのきょうだい同士の交流の中で、遊びを通して自然に身に付いてきた。大きい子どもは小さな子どもをいたわり、守る。小さな子どもは大きな子どもに感謝し、憧れる。そんな関わりの中で、ゆっくりと育まれてきた。</p> <p>しかしながら、地域の人間関係の希薄化が進み、近所づきあいや親戚づきあいも減少し、少子化によってきょうだい数や地域の子ども数が減ってくる中で、子どもたちが「人と関わる」ことに自然に慣れ、「人と関わりたい」という思いを自然に感じとっていく、そんな場も機会も失われてきているように感じられる。</p> <p>こうした状況の中、城山地区まちづくり会議では、部会を設置し、「既存の伝統行事や観光資源などを生かし世代間・地域間交流を進めるとともに、子どもたちが主体性をもって地域に関われる仕組みづくり」をテーマに検討を進めてきた。</p>	<p>近年、少子化の進行による子どもの減少に伴い、地域での同年齢・異年齢のさまざまな子ども同士のふれあいが少なくなり、地域における多様な子ども集団の形成が難しく、城山地区のほとんどの地域は育成会の活動が縮小している、子どもの社会性などの育成面で困難な状況が生じている。</p> <p>このような状況下において、城山地区の観光資源などを活用し、子どもたちの主体的・自主的な取組を通して、子どもたちの異年齢・世代間の交流を図り、その活動を通して、子どもたちの社会性や主体性を育むとともに地域への理解を促し愛着心を育てることを目的とする。</p>	<p>城山地区の小学生を対象に、城山地区子ども育成連絡協議会と協力・連携をして、モルック等の遊びやスポーツを通じて子どもたちが集まり交流できる場を設け、子どもたちから出される意見を聞きながら、子どもたちの主体性や社会性、地域への愛着心を育むことができる事業を実施する。</p>	R6.4.26	108,000	108,000	108,000
4	みんなの津久井湖夏祭り	みんなの津久井湖夏祭り 実行委員会	<p>①津久井湖城山公園(水の苑地)は城山地区の中で代表する風向明媚な観光スポットであるが、地区外の方の知名度が低く、津久井湖城山公園(花の苑地)に比べ観光施設が無いことや、イベントも少ないことから観光客が少ない。このことから水の苑地を活用したイベントを実施することにより、地域の魅力を発信し、知名度の向上を図り、地域の活性化につなげていく。</p> <p>②旧津久井郡は深刻な人口減少と高齢化が進んでいることから新たな魅力を創出する必要がある。</p> <p>③城山地区では各地域において様々なイベントが開催され、多くの地域においてスタッフの高齢化が進み、イベントの縮小や廃止がおきていることから、若手のリーダーや地域における公共的な活動の担い手の育成が必要である。</p>	<p>①本イベントを通じて津久井湖(水の苑地)とその周辺の美しい里地里山の魅力と城山地区の伝統文化を知っていただく。</p> <p>②このイベントは若者が中心になって、広くボランティアを募り市民参加型のイベントを目的としている。(実行委員長が20代男性、実行委員会メンバーの半分は女性)。また大学生のボランティアも昨年は60名と多かった。本イベントを通じて若手スタッフが育ち、地域における公共的な活動の担い手となって活動することを目指す。</p> <p>③出店は一般公募とするが、地元の飲食店に声掛けし優先的に出店していただき、地域の経済活動の活性化の一助となることを目指す。</p> <p>④本イベントを城山のイベントから緑区全体のイベントとなるよう城山地区以外の出展者、イベント参加者に広く広げて行く。また城山地区以外の団体とも本イベントに参加していただき、地域の活性化を目指す。</p>	<p>(1)伝統芸能披露(お囃子の演奏等) (2)キッチンカーやテントでの軽食及びフリーマーケットによる衣類や雑貨等の販売 (3)ステージでのパフォーマンス (4)ランタンキャンドルNight (5)参加型フォトブースの設置 (6)花火 (7)環境美化活動(ゴミ拾い)翌日実施</p>	R6.4.26	3,085,000	400,000	400,000

No.	事業等の名称	団体名	事業の概要			交付決定 年月日	事業費(単位:円)		
			事業の背景	事業の目的	事業の内容		全体額	申請額	交付額
5	しろやま☆おせっかい	城山地区まちづくり会議 高齢者とともに築き支える地域づくり部会	城山地区では、高齢者サロンや健康体操など、地域における交流活動が活発に展開されている。しかしながら、生活様式や個人の価値観の多様化などにより、自治会、シニアクラブ、その他さまざまな交流活動の場など地域社会との直接的な関わりを持たない高齢者も増加していると感じている。そうした中、地域社会との積極的な関わりを望まない人に対しては、誰かと繋がっているという安心感が得られるようなゆるやかな見守りの仕組みが必要であると感じ、令和2年度に「みんなであうまち・城山」そんな“おせっかい風土”を広めようと考え、異変に気付いたためのポイントを示したチラシ「しろやま☆おせっかい」を民生委員児童委員協議会の協力により城山地区内各戸に配付した。	城山地区内の住民が少しだけおせっかいになり、周囲への直接的な声かけのほか、目配せや気配りによる間接的な見守りの意識を醸成し、地域全体に浸透させ、誰も取り残されない、取り残さない”しろやま☆SDGs”の街を形成するため、今回は城山地区の住民の方々と実際に地区内を回り、まちのいろいろな表情(風景)をながめながら、周囲への声かけと併せて、声かけによらない目配せや気配りを行う「まちかどウォッチング」を実施し、参加者への「おせっかいバッジ」の配付を通じて取組の連帯意識の向上を図った。	令和5年度は、“おせっかい風土”をさらに広め根づかせるため、城山地区の住民(在学・在勤を含む)から参加者を募り、実際に地区内を回って、まちのいろいろな表情(風景)をながめながら、周囲への何気ない声かけと併せて、声かけによらない目配せや気配りを行う「まちかどウォッチング」を実施し、参加者への「おせっかいバッジ」の配付を通じて取組の連帯意識の向上を図った。 今年度は、「まちかどウォッチング」を引き続き実施すると共に、実際に地域で行われた“おせっかい”の事例紹介や、声かけを行う際の方法などを地域の方に見ていただく場を設け、さらなる風土の醸成を図りたい。また、「しろやま☆おせっかい」を根づかせるため、活動内容のパネル展示などの普及・啓発活動を行う。	R6.4.26	160,000	160,000	160,000
							4,084,000	1,299,000	1,299,000